

「調和」を愉しむ：米国先住民教会におけるペヨーテの共食と笑い

【はじめに】

■ ペヨーテとは：

- ・ メキシコとテキサス州の南部に自生するサボテン
- ・ メスカリンなどのアルカロイドを含む幻覚剤
- ・ 米国先住民ナバホの人々にとっては「精霊とコミュニケーションする」ための呪薬 (Calabrese 1994: 508)

■ 本発表の目的：

呪薬としてのペヨーテを食べることはどのような〈愉しみ〉であるかを明らかにする

【調査対象社会】

- アメリカ合衆国ナバホ保留地ホワイトコーンチャプター (アリゾナ州)
- 173,667 (286,731) 人 (2010年国勢調査) 中 1,771 人 (アメリカンコミュニティサーベイ)
- ナバホ語話者 169,471 (112,482) 人 (アメリカンコミュニティサーベイ 2011年版)

【ペヨーテ礼拝集会とは】

週末の夜に催される。ティピイと呼ばれる円錐型のテントで行われる。ティピイの中央で木が燃やされる。その火を囲むように、三日月型の祭壇が砂で作られる。祭壇にはペヨーテが置かれる。ミーティングの参加者は、その祭壇を囲んで車座になって座り、一晚中歌や祈りを繰り返し、合間にペヨーテ、ペヨーテ茶を回し飲みする。

【先行研究における問題の所在と本発表】

- ペヨーテ礼拝集会の目的：ホッジョー (Hózhó) の回復
 - ホッジョーとは：「あらゆるもの」との「調和」
 - ホッジョーの維持：
 - 1) ネガティブな思考や言葉を慎む、2) 環境や親族、精霊との適切な関係、3) 雷や妖術などの危険な力を避ける、等
 - ホッジョーの回復：
 - ・ 現実世界をつくる能力を持つ精霊に、ホッジョーを回復するように祈祷の文言で指示
 - ・ 精霊は、思考することで現実世界をつくる
 - 問題の所在
 - ・ 「調和」や「美」という西洋哲学的観念 [Lamphere1969:451]
 - ・ 人々はホッジョーの意味はうまく説明出来ないが、具体的な「形」は説明出来る [Lewton2000: 479]
- ⇒本発表では、その「形」に注目＝笑いに注目する

【笑いとは】

- 承認としての笑い
- 笑いの印象

【笑いにおける調和の印象】

- 「笑い」に近づく
 - ・ 「笑い」の語り：「笑いは美を表現」
 - ・ 初対面の場面：関係の相応しさとしての笑い
 - ・ 集まりの場面：笑いの予期

- 「怒り」から遠ざかる
 - ・ 「ネガティブな人とは間をとる」
 - ・ 「ただ家を離れたかった」

⇒ネガティブな思考を避け、ポジティブな思考をするための行為 ⇔ あらゆるものとの調和

【ペヨーテ礼拝集会における笑い】

- 思考（＝腹）を変える

「祭壇の前で語ることは、ネガティブなエネルギーを吐き出し、ポジティブなエネルギーを吸うこと」「気分がよくなる」

- 形式的な笑い：

- ・ 必ず（5／5）笑いが起こる「ティピィから出るな」
- ・ 「ティピィから出るな」

⇒「調和」（の回復）としての笑いが予期されている

【結び】

- 笑いは「調和」関係を表す

- 「調和」を回復するためのペヨーテ礼拝集会では大きな笑いのハーモニーが起こる

⇒ペヨーテを食べることでポジティブな思考を作り、「笑い合う関係」を愉しむ

【引用文献】

Calabrese II, Joseph D.

1994 Reflexivity and Transformation Symbolism in the Navajo Peyote Meeting," *Ethos* 22 (4) :494-527.

Lamphere, Luise

1969 Symbolic Elements in Navajo Ritual. *Southwestern Journal of Anthropology* 25.

Lewton, Elizabeth L.

2000 "Identity and Healing in Three Navajo Religious Traditions:Sa'ah Naaghai Bik'eh Hózhó" In *Medical Anthropology Quarterly* 14(4).